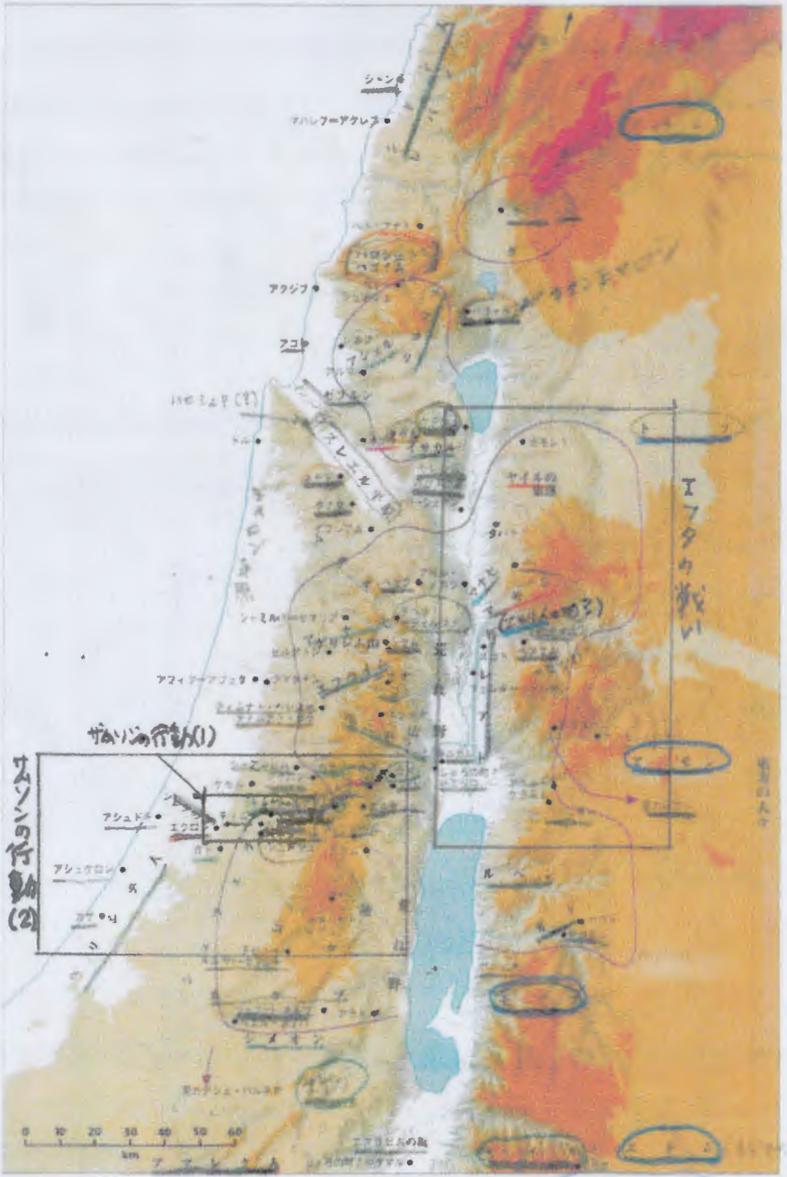


士師記概(西女)エフタとサムソン

- 六 トラ ハガヤイル (サムソン) 101-2 ↑ イッサカル
- 七 ヤイル ハガヤイル (サムソン) 103-5 ↑ マナセ (ルベン)
- 八 エフタ ハガヤイル (サムソン) 106-18 ↑ マナセ (ルベン)
- a 序論 (106-18)
- b エフタの登場 (111-12) はりの女の事「まは、まはにむびたんだ、凡、ギルアデの最夫」
- c トランス・ヨルダンでのイスラエルの領土権の主張 (112-28) 出エの歴史、アモス、エドム、エモリム
- d アモン人に対する勝利 (129-33) 全滅のいけいけの歌
- e エフタの娘のいけいけ (134-40) 西女を流く、4月向る、イモリム
- f エフライムとの戦い (111-17) 可哀なサムソンをエフライム、おん病者、「シボレテ」
- 九 イブツァン 118-10 ↑ エダ
- 一〇 エロン 111-12 ↑ セアルン
- 一一 アブドン 113-15 ↑ エフライム
- 一二 サムソン 131-16 ↑ ダン



(西大士対女民族)
 ギブソン ↔ ミディアン人 (アラブ)
 デボラ/バラク ↔ カナン人

エフタ ↔ アモン人
 サムソン ↔ ペリシテ人



エフタの追放



エフタと仲間たち



エフタ、アラムを討つ



エフタの娘



エフタの娘と仲間たち

エフタの娘、生贄となる

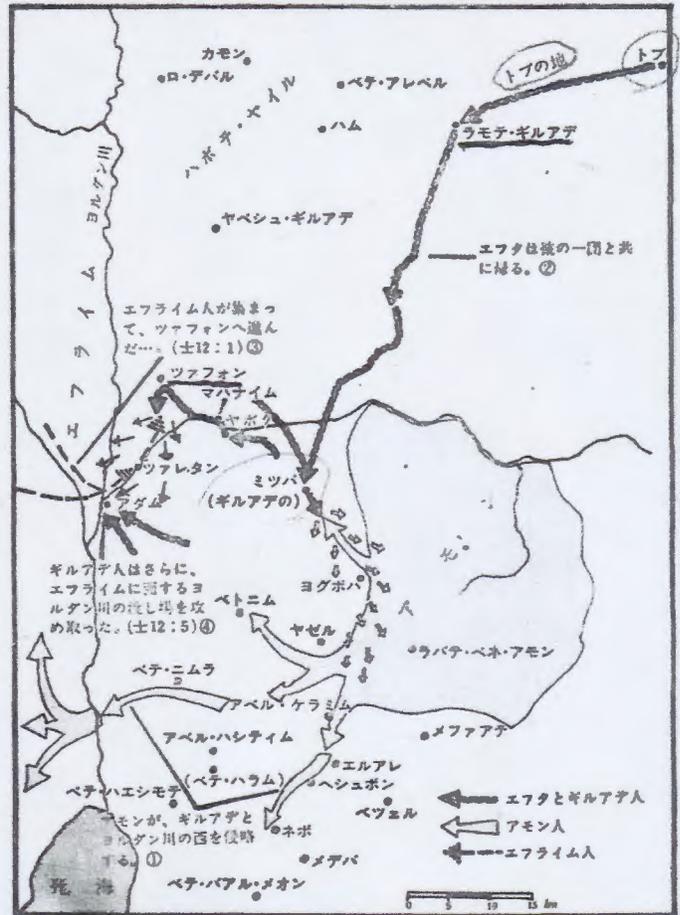


図8. エフタの戦い(士11-12:7)

女の子エフタ

有名な怪力の持ち主といえば……

神さまに助けられても、やがてそれを忘れて神さまの怒りをかい、外国の支配が続く。士師の時代はその繰り返し。怪力の持ち主サムソンが生まれたのは、40年間ペリシテ人が力をふるっていたころだ。サムソンは、ナジル人として神さまにさせられた。

マノアの妻
神の使いから、
男の子が生まれ
ると知らされる。



マノア [Manoah]
ダン族。ツオルアの出身。
子どもがいなかったが、
神さまのために働く子ども
も与えられる。



神の使いが教える正しい
ナジル人の育て方

- 1 妊娠中は、ぶどう酒を飲まない。
- 2 けがれたものも食べない。
- 3 子どもの頭にかみそりを当てない。



サムソン [Samson]

怪力エピソード1
ライオンにおそわれたとき、神さまの方がくんだり、ライオンを素手で真つ二つに！

デリラ [Delilah]



怪力エピソード3
敵が町の門で待ち伏せしていると、町の門の扉と門柱を引きぬき、肩にかついで山の上へ……

怪力エピソード2
新しい縄2本でしばられたが、縄を切り、ろばのあご骨を拾って1000人を打ち殺した。

サムソンの弱点は女の人。恋をしてはトラブルを起こす。ソレク谷のデリラを好きになったが、デリラはペリシテ人の領主に言いくめられ、サムソンの怪力の秘密が髪に毛にあることを聞き出す。サムソンは寝ている間にデリラに髪7房をせられ、とうとう力を失ってつかまってしまった。でも、どれいのように働かされている間に髪が伸び、神さまに祈ったサムソンは、よみがえった力で人が大勢集まっている建物を崩して復讐をとげた。

サムソンとデリラ



サムソンときつね



サムソンと蜂蜜と獅子

